

父に学ぶ 2世の素顔

▷④◁

ニューサー回りが多い中で、技術コンサルタントとしての資格も十分持ち合わせており、仕事にアブラののった専務だが「今更ながら、この四十一年間、父が一代で築き上げてきた企業の重みを感じて」と振り返る。

父親から教わった事はいろいろあるのだが「何と云っても物事に対する鋭い価値判断が、の展示会によく連れていかれたのも、鉄は熱いうちに打て、の

チャレンジ精神学ぶ 「知価を売る企業」に重点



加藤鉄工専務

加藤利夫氏

チャレンジ精神ではなからうかという。子供のころ、各種

父親の教育方針の一つだが「子供ながら好奇心は持っていたものの、複雑なメカの産業機械などはさっぱり。しかし、何回か連れていかれるうちに、単なる見学ではなくして、製品を通じて開発した人の意図をくみ取れるようになった」といふ。父親

がそれとなく連れていった狙いもそこにあつたようで、人間は考える輩(あし)、のびとく常に考え、一つ飛び抜けた感覚を養えといわんばかり。

トに当たる知識、知恵とハード面では価値観のある製品を世に出すといった狙いをもとに加藤専務が打ち出したもの。同社は下請けの仕事は一切やらず、自社製品だけで今日の企業基盤を築き上げてきた。その根幹は「父親から学んだ事は、私ばかり

りでないと思うが、人間の能力は無限で、苦しめば苦しむほどいいアイデアが生まれる」ことから来ている。この経営路線は終始一貫している。

また、無借金経営も同社の基本とするところだが「今後、もう少しオリジナル製品に対する市場拡大策が課題といえそうだ」と強調している。

プロフィール

四十七年三月に成城大学経済学部卒業後、一年間、某機械メーカーに勤めた。この会社に入ったのは翌四十八年四月。昭和二十四年九月六日生まれ、三十六歳。福島市出身。

住所 福島市旭町八一三三
社長 加藤正吾氏
業種 産業用各種省力機械、公害防止機器
▽資本金 五百万円
▽従業員 二十七名